

③ 高校再編問題について

岩田とも子

① 高校再編による影響について

今回の高校再編整備計画により通学区域が拡大され、学区外入学枠が拡大された結果、どのような影響が生じたと考えておられるか教育長にお尋ねします。

② 地域に根ざす高校のあり方について

熊本地震からの復旧・復興を進めていくためにも、地域の人材をいかに育て、地域で確保していくかが大きな課題であり、地域で育ち、地域で学ぶ機会の確保はとても重要だと考えます。地域と一体となったこれからの高校のあり方、地域に根ざす高校のあり方が求められると考えますが教育長はどうお考えになりますか。

宮尾教育長

① 通学区域拡大前の平成21年度と平成28年度の流出割合を比較すると、旧宇城学区ではふえていますが、他では減っているところもあります。学区外合格者の割合の平均が7.98%にとどまっています。こうした状況から、受検者の動向を引き続き慎重に見極めていく必要があります。

② これまで以上に地域との連携を深め、防災教育などを推進できるようなコミュニティ・スクールを導入したり、復興に向けて必要な知識や技能を身につけるための学びを深めていくことも考えています。地元自治体等と連携しながら、それぞれの高校の魅力を高め、情報発信していくことで、地域に根ざした特色ある学校づくりをすすめていきます。

④ 教職員の待遇の改善について

岩田とも子

① 熊本地震により増加した教職員の校務に対応した人的支援について

地震後、教職員の公務は養護教員はもちろん、事務的な仕事もこれまで以上に増えることを心配します。また、従来の授業や生徒指導以外の点でも、きめ細やかな児童・生徒への対応が必要です。さらに保護者対応、地域の方々との連絡調整、登校下校の指導などをする職員が必要になるとも言われました。私もそう思いました。そういったことに柔軟に対応できる加配教員の必要性や来年度に向けての熊本地震に対応した人的支援について、教育長に伺います。

② 教職員の多忙化の解消について

教育学部を卒業しても教員を選ばないという現実と教職員の働き方の現実とはリンクしているのではないかと思いますがいかがでしょう。熊本県の教職員も採用された1年目で辞職をする方が今年度もいました。本格的に働き方にメスを入れる時期ではないでしょうか。議員になって教職員の多忙化の問題を質問し続けています。このままでは熊本も他県のように教員不足で悩み続けることになるのではないかと危惧していますが教育長の見解をお聞かせください。

③ 臨時的任用教職員の処遇改善について

臨採の先生方の存在なくして学校の経営は成り立ちません。子どもや保護者からみれば、正規も非正規も関係ありません。どちらも同じ先生なのです。臨採の先生方も同じように子どもたちに対する職責を担っているのです。「継続的な役割」についても、臨採の先生方は退任される前に次年度の年間計画や予算を立てています。任用期間外のことまで仕事をしているのです。改めて教育長にお尋ねします。現在の臨時的任用教職員の今後の処遇改善について、どのようにお考えでしょうか。

宮尾教育長

① 本年度は文科省から91人分の加配措置を受けました。来年度も引き続き人的支援を行う必要があると考えており、市町村教育委員会と協議を行っています。



② 社会が複雑化し、学校現場を取り巻く環境も多様化しており、教員の負担が大きくなっています。長時間勤務の改善のため、管理職研修で適正な勤務時間管理に関する事例検討を行うほか、市町村教委に労務管理を適正に行うよう指導し、管理職研修など意識改革の取り組みも実施しています。

③ 臨時的任用教職員は学校現場において欠かせない存在であることは承知していますが、長期的な学校経営の視点から継続的な役割を担う本採教職員とは職責が異なると捉えています。処遇については他県との均衡も考慮しながら給与水準等の取り扱いを定めており、来年度は学校栄養職員の給与の改善を行っています。

① 県民の防災意識の向上について

岩田とも子

① ほほえみスクールライフ支援事業の運用について

主治医がもっと看護師や子どもと主体的に関わることができるような運用となれば、保護者の不安も看護師の不安も軽減されるのではないかと思います。そうなれば子どもも安心だと保護者の方々からの要望も聞いているところですが、教育長の見解をお聞きます。

② 医療的ケアが必要な子どもの送迎支援について

医療的ケアが必要な子どもは原則、通学バスを利用できません。毎日保護者の送迎です。親が体調を崩してしまうと、学校に行きたくても、子どもは学校を欠席せざるをえなくなります。滋賀県では子どもの通学を福祉車両に訪問看護師を乗せて送迎する実証実験を2013年から行っています。3年目の昨年は通学支援の実施範囲を広げています。県の福祉部局と県教委が一丸となつての取り組みです。ぜひ、熊本県に於いても健康福祉部と県教委とがしっかり連携し、子どもたちの通学保障を考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。教育長にお尋ねします。

宮尾教育長

① 教育委員会が直接委託することで高い専門性のある医療機関を確保できます。学校の所在する医療機関であることから子どもたちへの理解が深いのです。看護師が委託を受けた医療機関に所属していることで緊密な連携対応ができます。ということで安心安全な医療的ケアの提供ができています。今後もこの事業に関わる全ての関係者が安心感を持てるようにすることで医療的ケアが必要な子どもたちが安心安全の中で学べるよう努めていきます。

② 今後、健康福祉部と連携し、どのような送迎支援ができるか、他県の取組等を研究してまいります。

3月定例議会を終えて

今回の議会では、当初予算の中に国直轄事業の立野ダムの県負担金や学校での集団フッ化物洗口の予算が入っていたので、反対をしました。一般質問では、防災について知事も同じ認識であり、県民へも全国へも発信をすると答弁があり、良かったと思います。教育長への質問が多かったのですが、その中で医療的ケアのこどもたちの通学支援について健康福祉部との連携について前向きな回答を得たことはこれから明るい展望だと感じました。

学生インターンの声

※今回は3人の大学生と高校を卒業したての2人がインターンシップをしています。(3月現在)



インターンの大学生3人と

岩田議員のもとでインターンシップをさせていただいて、物事を多方面から見るできるようになりました。岩田議員はたくさんの施設に連れて行ってくださって、現地の様子を観察し、自分がどう思うか、周りの人がどう思っているか意見の交換の機会を設けてくださいます。様々な人の意見を聞くことができ、視野が広がったと思います。岩田議員は女性議員で元教師の議員さんなので他の議員さんと違った視点で物事を見ることができるので、そこも参考にさせていただいています。とてもフレンドリーに声をかけてくださるので楽しんでインターンシップの活動を行うことができました。この活動で得たものを将来に活かせるように、日々の生活を送っていききたいと思います。

(九州ルーテル学院大学人文学部 A.H)

私は、岩田議員のもとでインターンを行い、多様な視点で物事をとらえることの大切さを知りました。岩田議員は何か気になることがあると、実際に現地に赴き現地の方の声を直接伺います。現地の方の気持ちは、私が考えていないような答えが返ってきて、何度も衝撃を受けました。岩田議員のもとでインターンを受けて、一つの考えに縛られないことの大切さを知る貴重な経験ができました。

(熊本学園大学経済学部 K.K)

私は社会人に必要な知識やマナーを身につけ、将来の目標である「子どもや若者を助ける仕事」に関わりたいと思い、教育や福祉に強い岩田事務所でのインターンに臨みました。ここでは施設訪問等を通して当事者の声を聴き、様々な問題の現状を見ることができます。私自身、視野の広がりを実感しています。参加して本当に良かったです!

(熊本学園大学経済学部 M.M)



インターンの学生とディスカッション中

約1ヶ月岩田議員のもとでインターン活動をさせていただきました。高校までの学校生活の中で政治に触れる機会がなかなかありませんでしたが、一緒に活動させていただく中で、初めて真剣に政治と向き合うことができました。選挙権が18歳に引き下げられ、若者の政治に対する関心を高めることが必要になってくるので、とても良い機会になりました。この活動で得られた経験をこれからの生活に活かしていきたいと思いました。

(熊本北高等学校 E.O)

岩田議員のもとでインターンを初めて行い貴重な経験をしていく中で、普段議員の方がどのような活動をしているのかを知ることができました。この経験を踏まえ、政治の世界に入っていきたいと思います。本当にインターンシップに参加して良かったです。

(熊本西高等学校 Y.A)